

2022年度NS物流研究会発表会
「テーマと概要」

発表順	学校名	テーマ	概要
1	城西大学 上西ゼミ	コロナ禍での再配達の実状と対策～置き配を中心として～	従来から「物流危機」への対応として、宅配便の再配達削減などの取り組みが進められてきた。コロナ禍でネット通販の需要が高まっているものの、置き配の拡大等により再配達率は低下している。本研究では、コロナ禍における置き配の実態についてアンケート調査を実施し、それを踏まえて今後の提言を行う。
2	流通科学大学 田中ゼミ	メーカー物流企業に対する新規事業の提案	国土交通省による倉庫事業経営指標によると、倉庫業の経営状況は比較的、良好である。 一方、経営状況が良好であっても、特定の荷主への依存度が高いという懸念事項も少なからずあると思われる。 そこで、メーカー系の物流企業の協力を得て、主力の物流事業以外の新規事業の可能性について検討したい。 具体的には、1)DX化を見据えたスマートマットの提案、2)SDGsを踏まえた滞在在庫の有効活用、の2点について検討する。
3	福岡大学 阿比留ゼミ	人手不足に直面する物流業界で運送効率を上げる	現在、物流の需要は増加傾向にあり、年々市場規模も拡大しています。しかし、日本は急速な人口減少を迎えており、合わせて物流人口も減少しています。さらにドライバーの高齢化問題もあり、業界として「人手不足」という大きな課題を抱えています。そこで、「少ない人数で多くの仕事をこなす」ことを重要視した私たちは、フリ便で店舗から出る資源ゴミを回収する事で、積載率向上を目指し、運送効率を上げる提案を行います。
4	神奈川大学 齊藤ゼミ	「東京港におけるコンテナ荷役・輸送の効率化に向けて」	日本の港湾の中で最もコンテナ取扱量が多い東京港では、港湾内や周辺道路の混雑が問題となっている。そこで本研究では、周辺道路の混雑の一因とされる空コンテナの陸上輸送や、港湾内の混雑をもたらす長期蔵置貨物に焦点を当て、現在推進されているコンテナラウンドユース等の施策をベースに、コンテナ輸送の効率化による混雑の改善を目指した提言を行う。
5	朝日大学 土井ゼミ	物流企業におけるピクトグラムの活用案	庫内作業は、多様な人材から構成される。荷役作業全般は不慣れであっても、時間の経過とともに、経験的に必要な作業を習得してしまい、作業員自身から問題化されることは少ない。ウクライナの方を含め言語的に直接意思疎通が図れない場合、作業の戸惑いが顕在しにくく、働きやすい作業環境のためには改善が必要である。そこで本研究では、阿時の呼吸で働く現場において、不慣れな作業者の特性を把握し、言語に寄らず誰もが理解しやすいピクトグラムの活用案を提案する。
6	東京海洋大学 黒川ゼミ	荷役作業時の事故を削減するために	現在、陸運業界では減少傾向にあった死傷事故数が増加傾向にある。この死傷事故数の約6割を占めている荷役事故について、実際にアンケート調査と分析を行うことで事故の削減に向けた新たな提言を行う